

城下町周辺 散歩ルート



1 松秀寺 【しょうしゅうじ】

寛正4年(1463)創建。曹洞宗の寺で、本尊は釈迦牟尼仏。境内には、天誅組に参加した宍戸弥四郎の墓がある。延宝4年(1676)刈谷の町人が寄進した「木造十一面観世音菩薩立像」は、市指定文化財。



松秀寺

2 秋葉社 【あきはしゃ】

秋葉神社 (万燈祭発祥の地)

宝暦6年(1756)この地に秋葉堂が建てられ、翌年から祭りが行われた。安永7年(1778)には笛や太鼓とともに万燈が登場している。万燈祭は火難防除・町内安全祈願のため、現在も続けられており、県の無形民俗文化財に指定されている。



秋葉社

3 十念寺 【じゅうねんじ】

浄土宗西山禅林派の寺。本尊の「木造阿弥陀如来坐像」と元禄15年(1702)阿部伊予守正春が寄進した「木造十一面観世音菩薩立像」はともに市指定文化財。境内には刈谷藩主土井家の廟所(市指定史跡)のほか、天誅組総裁松本奎堂や俳人の中島秋琴の墓がある。



十念寺

4 宍戸弥四郎生誕の地 【ししどやしろうせいだんのち】

(宍戸弥四郎碑)

宍戸弥四郎は、刈谷藩士宍戸弥助6男で、天保4年(1833)1月14日生。諱は昌明。官職をやめた弥四郎は関東各地で勤王の士と交わり、尊王攘夷論が高まる中、文久3年(1863)天誅組の挙兵に合図係として参加した。



宍戸弥四郎碑

5 専光寺 【せんこうじ】

真宗大谷派。創立時期不詳だが、初めは天台宗で、室町時代に蓮如上人が訪れた際に改宗たとされる。県指定文化財「往生要集」「美濃国鍛冶系図」、市指定文化財「絹本淡彩真慧上人画像」「地獄の絵巻物」「紺紙金泥大般若経」所蔵。境内のクスノキは市指定天然記念物。



専光寺 クスノキ

6 長遠寺 【じょうおんじ】

日蓮宗の寺院。万治元年(1658)に緒川(現東浦町)の越境寺の日信が隠居した道場が起源。寛文年間(1661~73)の初めに越境寺の日慶が寺として取り立てた。稲垣家や阿部家、三浦家など刈谷の歴代藩主の崇敬が篤かった。

7 海会寺 【かいえいじ】

創立時期は不詳だが、応永年間(1394~1427)、遠江国浜松の普濟寺の利山義聡に帰依し、曹洞宗に改宗したといわれる。刈谷藩主稲垣氏に庇護された。本尊の聖観音菩薩立像は平安末~鎌倉の作といわれ、県指定有形文化財。

8 西勝寺 【さいしょうじ】

創立時期は不詳だが、寛正2年(1461)に最勝が蓮如上人に帰依し、浄土真宗に改宗としたといわれ、顕如上人の御影や教如上人の書状などを所蔵。本尊の阿弥陀如来像は元和2年(1616)に本山から下賜されたものとされる。



西勝寺

9 実相寺 【じつそうじ】

創立時期は不詳だが、江戸初期頃と考えられる。境内には、卍を模倣した紋章のついたキリシタン燈籠がある。本尊の阿弥陀如来立像のほか、客仏の阿弥陀如来坐像があるが、これは10世紀末頃作とされ、現在刈谷市域で確認できる最古の仏像。



実相寺